

2019年度 認定こども園 常磐大学幼稚園 自己評価総合表

2020年4月

○自己評価

各設問に対して4~1の段階で評価

4…目標が十分に達成されている。

3…目標がほぼ達成されている。

2…重要な点で成果が上がっていない。

1…全体として成果が上がっていない。

【評価項目】

1. 質の高い学校教育としての保育の向上

①教育理念

○園の教育方針

・園の教育方針を理解している	3
----------------	---

②保育の計画性

○教育課程

・園の教育課程を理解している	3
----------------	---

・教育課程をもとに指導計画をたてている	4
---------------------	---

○指導計画

・指導計画は教育要領・教育課程・幼児の実態などをもとに考えて作成している	4
--------------------------------------	---

・指導計画は常に見直しを行っている	3
-------------------	---

○月案・週日案

・教育課程をもとに幼児の実態に合わせて作成している	4
---------------------------	---

・自分なりに標記の仕方を工夫し課題をもった内容になるよう努力している	3
------------------------------------	---

③保育の実践

○5領域

・健康・人間関係・環境・言葉・表現についてそれぞれ工夫して保育を実践している	4
--	---

○子どもとのかかわり

・子どもの心身の状況や変化を常に把握している	3
------------------------	---

・子どもの話をよく聞き、常に子どもの気持ちを受け止められるよう気をつけている	3
--	---

・子どもの発達や性格に応じたかかわり方を実践している	3
----------------------------	---

・子どもの人権を尊重して保育にあたっている	4
-----------------------	---

○教師間の連携

・子どもについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年を越えて情報交換する機会を持っている	3
--	---

・教師間で保育技術や保育方法の意見交換をする機会がある	3
-----------------------------	---

・独断で行動せず、事前相談・事後報告をし合っている	3
---------------------------	---

○保育の記録・反省

・一人ひとりの子どもをよく観察するよう心がけている	3
---------------------------	---

・クラスの運営や子どもの生活、または育ちを毎日記録している	3
-------------------------------	---

・反省を踏まえ、次の日の保育に生かす工夫をしている	3
---------------------------	---

④学級運営

○保育室の管理

・保育室内の整理整頓を心がけ、掃除がいきとどいている	3
----------------------------	---

・子どもの動線を考え、安全に配慮した環境になっている	3
----------------------------	---

○事務処理

・出席簿、週日案等は毎日正確に記入している	3
・配付物は決められた期日に配付している	4
・連絡ノートはすぐに目を通し適切に対応している	4
・保護者からの提出物、現金など注意深く管理している	4

2. 特色ある教育活動としての大学院・大学・短大との連携

・短大・四大生のゼミ活動に対する積極的な参加協力をしている	4
・わくわくチャレンジ(理科・体育・絵画・音楽・空手)や、ハローイングリッシュなどのプログラムを保育活動として有効的に取り入れている	3
・実習活動、インターンシップにおいて、受入れ体制の充実と指導力の強化に努めている	4

3. 給食と食育活動

旬の食材を使った給食や手作り弁当を和やかに食べられるような雰囲気づくりをする	3
食に対し興味や関心をもち、感謝をしながら無駄にせずいただく気持ちを養う	3

4. 地域の小学校の子ども・教職員の交流

・小学校の教育内容について理解しようとしている	2
・卒園した子どもの情報を得るように努力している	3
・地域の小学校の行事や公開授業に積極的に参加し交流をもつ機会を得ようと努力している	2

5. 資質向上のための研修の充実

①研修・研究への意欲

・研修会に進んで参加する	3
・保育関連の専門書や専門雑誌を読んでいる	3
・研修会で習得したことを実際の保育に生かしている	3
・教材研究をしている	3

6. 総合的な保育の支援(保護者・地域ニーズの考慮)

①保育等に関わる情報発信の強化

・子どもの変化や出来事、日常の様子を出来る限り保護者に伝えている	3
・保護者からの依頼や質問、相談などには適切に対応している	3
・家庭との連携が不可欠であることを認識し、保護者との情報交換に努めている	3
・日々の保育活動を、ホームページやFacebookなどを活用し発信している	4

②協力と支援

・保護者からの意見、要望については安易に受けたり、断ったりせず、上司に報告・相談をしている	4
・保護者への支援が可能な部分については、上司・他の教職員の合意のもとで行っている	4
・保護者の協力が必要な場合は、上司と協力のあり方を協議の上で保護者に依頼している	4

③良識とモラル

・個々の子どもや保護者、家族の情報は口外していない	4
・保護者との接し方は平等になるよう心がけている	4
・保護者に対して丁寧語で話している	4
・保護者の言葉づかいにこだわらず話を誠実に聞いている	4
・すべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている	4

④クレームの対処

・クレームに対して謙虚に話を聞いている	3
・保護者の意を理解し、その上で園の意向も理解してもらい、納得が得られるように努めている	4
・必ず、上司に相談・報告している	4

7. 安全面への対応・衛生管理

①園内の安全対策

・園内に危険な物、壊れた物はないか常に観察し、発見次第報告している	3
・園が行っている安全対策について理解している	3
・消火器、非常ブザーなどの位置を把握し、使い方を理解している	3

②飲食物や薬品の管理

・飲食物の保管には十分配慮している	4
・救急薬品、清掃用薬品の保管、取り扱いには十分配慮している	4

③事故やけがに対するの対応

・事故やけががあった時は迅速かつ適切に責任をもって対応し記録をしている	3
・事故やけがの状況や原因を把握し上司、保護者に報告している	4

④降園途中の安全対策

・通園バス添乗の場合、添乗における安全対策・注意事項を理解し配慮している	3
・降園時の子どもを確実に保護者に手渡し、その後の見回りも積極的にやっている	3

8. 子育て支援

・地域における保護者の実情や要望による子育て支援ニーズを把握している	3
・カウンセリングの基礎を理解し、保護者に対して相談対応などを行っている	3

9. 預かり保育

・保護者の実情や要望をできるだけ取り入れ、預かり保育事業の実施に協力している	3
・預かり保育事業を行うにあたり、体制整備に関して職員間で議論している	3

10. 期待される望ましい保育者像

①幼稚園教諭としての能力

・幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけてうえでの実践に努めている	3
・子どもの性格や個性を把握するよう努め、コミュニケーションがとれる	3
・仕事の手順を考え、優先順位を見極め能率良く行っている	3
・リーダーシップを発揮し、魅力ある学年・クラス運営目標を達成しようとしている	3

②良識とマナー

・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	3
-----------------------------------	---

・その場に適した言動がとれるよう努めている	3
・服装・髪型・身だしなみなど、清潔感があるよう心がけている	3

③職務の遂行

・職員として誠実に職務に専念している	4
・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの守秘事項は厳守している	4
・重要書類や個人情報にかかわる資料等は確実に保管し、園外に持ち出さない	4
・教材・教具の管理、点検に気を配っている	3

④組織の一員としてのあり方

・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	4
・自分の意見と異なる結果になっても、決定したことには快く協力実行している	4
・当番や担当などの仕事の分担は、積極的に責任をもって実行している	3

【2019年度を終えて】

・経験を積み見通しがもてる職員が多いためか、行事前の役割分担・準備、提出書類のまとめ、期限までの提出等、計画的に進めていく職員が多かった。それぞれの立場を踏まえ、やるべきことに向かっていたが、クラスでの共通理解は十分でも、学年共通の情報交換は物理的に困難な部分もあったようだった。
保育の合間に交わす集約した会話や、端的な内容のメモのやり取り、「あれっ」と思えるイマジネーションを磨き、「気づいたら声を掛け合う」アウトプット力を、それぞれに、より一層身に付けていくことが課題とされる。

・今までも少しずつ行事の見直しをしてきた。実施することで一人ひとりの育ちには確実に繋がっている。しかし、年長組の3学期は取り組み活動が少なく、それをこなすことで精一杯になってしまう傾向がある。本来の「子どもたちの自由性のある遊び」を重視した活動の精査を引き続き検討していく。

・昨年10月から保育の無償化に伴い、2号認定希望のご家庭も増加傾向にある。教職員の勤務形態も念頭に入れながら、認定こども園としての役割も果たしていかなければならない部分の擦り合わせを、来年度も行っていきたい。